

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、管理者と職員は常に念頭におき実践に努めている。	事務所内に事業所の理念が掲示しており、共有しながら実践に繋げている。	法人の「笑がお」を基に「私たちが目指すもの」4項目を掲げ、かわりの中から実践に繋げている。月1回の会議の際に職員間で共有し、やさしい言葉がけを行い、笑顔でくばり等気を付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、会議に参加していただいているメンバーも以前より、グループホームに対し、ご協力とご理解をいただいている。また今後その方々を通じて地域の行事に参加していくこともすすめていく。	現在、会議に参加していただいているメンバーも以前より、グループホームに対し、ご協力とご理解をいただいている。また今後その方々を通じて地域の行事に参加していくこともすすめていく。	併設の地域密着型特別養護老人ホームと一緒に喫茶行事(月2回)を第2、第4の水曜日に近所のボランティアが来所しコーヒー等と一緒に飲み楽しんでいる。中庭で入居者がお茶を飲んでいる時、畑に来た近所の方と話したり等、地域の一員としての取り組みを目指している。	地域の自治会長、民生委員等が運営推進会議のメンバーになってもらい、利用者が地域の一員としての意識を持ちながら暮らし続けるために、行事や地域の情報を得ながら生活することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。	日頃より地域の方々に向け声かけを行い、グループホームへの理解を求めるとともに、気軽に訪問や相談をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、サービスの実際や、取組みについて等報告話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議にはご家族も参加して頂き、日々の状況報告を行い、意見交換の場として活用している。また実際に行事などへの参加も頂いている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を予定しているが、数回しか実施されていない。会議の折には新しくなった法人内の事業所を見学し、連携の内容を理解してもらっている。今後の予定を話し、利用者代表の参加者から希望等を伺い、今後に繋げている。会議の記録等は職員に伝え情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加を頂き、実際の活動報告を行い相談するなど密に連絡を取り合っている。	運営推進会議に市職員の参加を頂き、実際の活動報告を行い相談するなど密に連絡を取り合っている。	グループホームから市担当窓口へ、市外の利用者の受け入れについて相談し、諸連絡をして入居という段取りがとれた。また、更新時の相談や空き状況等の連絡は密にとっている。パンフレットを包括支援センターに置いて事業所を理解してもらうよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止委員会を開催する他、勉強会なども行い身体拘束についての理解に努め、ケアに活かしている。	身体拘束防止委員会を開催している。身体拘束ゼロの手引きにしたがって、現在も拘束を行わずケアに取り組んで入る。	法人全体の拘束委員会に参加し、事例について内容を協議・検討している。議事録は職員間で回覧して共有している。グループホームの玄関は常時開いているが、来訪者や職員の出入りの多い正面玄関に利用者は行くことが多いので、外に出たい様子が見えたときは、職員と一緒に行き気分転換出来る様に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、在宅や施設での虐待が見逃されないように注意し、虐待防止の徹底に努めている。	虐待防止委員会を開催している。日々のケアの中でも言葉遣いなどに十分注意し虐待防止の徹底に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業所や成年後見制度についての資料等を閲覧できるようにしている。	職員が成年後見制度の研修会に参加し、理解、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見要望を日々の中からも伺うようにし、その情報を職員間で共有し運営に反映できるように努めている。	運営推進会議において意見交換を行い、利用者やご家族の意見を表に出せる機会を設け、運営に反映している。	新設のグループホームなので、個人的な意見・要望は面会時に家族から出してもらえぬ雰囲気づくりに努めている。利用者から浴室の手すりや段差の工夫をしてほしいとの要望で検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡帳等を活用し意見や提案の収集をしている。	職員会議や面談などを設け、意見や提案を聞く機会を持っている。	管理者は休憩時、夜勤時等で意見が出しやすい雰囲気づくりに努めている。風呂場の滑り止めマット、シャンプー台等職員から提案があり、運営に反映されている。提案や気づきを連絡ノートに記入して共有している。買い物、特別な外出(花見・外でのレクリエーション)等の要望があり、今後のサービスに繋げるように検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。	職員個々の能力を把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の職員との交流をもちや報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。	同法人の職員との交流をもちや報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。	アセスメントを行いご本人の不安や要望に傾聴する。声かけコミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。	入所時には担当者会議を開催し、ご本人・ご家族の不安や要望に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人・ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人・ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め実際のサービスに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒に、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。	できることを職員と一緒に、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	アセスメントで把握し、面会時に家族から得た情報のほか、日々のかかわりの中で声をかけ、馴染みの人の把握に努めている。自宅に週1回帰って、美容室や床屋に行く利用者や、昔の仕事仲間の友人との面会、孫達とのふれあい、娘との携帯での連絡等、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。	利用者同士の関係、性格等を把握しながら、日常生活の中で利用者同士が分かりあい、支え合い円滑な関係となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	サービス担当者会議でご本人、ご家族の希望や意向を聞いてその希望に沿った生活をして頂く。また、日々のコミュニケーションからも意向をくみ取りその後の支援に活かしている。	ちょっとした会話の中から本人の意向・要望の把握に努めている。「仕事にきている」と思い込んでいる利用者には、洗濯物たたみ等で本人の生きがいに通じるよう努めている。また、言葉に出しにくい利用者の場合は、家族や日々の行動や表情からくみ取って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味嗜好、生活環境などこれまでの生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握を、申し送りノートや各種チェック活用し日々努めている。	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握を、申し送りノートや各種チェック活用し日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイデアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	日々の生活の様子をもとにご本人、ご家族、職員の意見やアイデアを反映して、現状に応じた介護計画を作成している。	入居後、利用者と日々接する中や申し送りの中で情報を得て、家族・利用者の思いや意見を聞きプランに反映して、利用者本位の暮らしのプランを作成している。モニタリングを職員全員で行い、普段と違うという変化が見られた際は、検討してその状態に合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている。	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。介護計画の評価、見直しに際しても生かしている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームめぐみ登美	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、また健康 喜び 安心のある生活が送れるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方によるボランティアや、理容サービスなど豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ずご本人、ご家族合意の上かかりつけ医にて適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診支援は、事業所の協力医療機関等のかかりつけ医とすることを本人・家族に説明し、同意を得て支援している。協力医が、より専門的な受診は医師が紹介状を書き専門医の受診をし、情報は受診表を持参し共有している。歯科は施設前のクリニックに家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期受診を通じて日頃から情報交換を行っている。入退院時には病院と随時連絡を取り合っている。またためぐみフェスタなどの行事を通じて交流を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と検討し、事業所のできることを十分に説明を行っている。医療機関とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	早期から家族と話し合いの場を持ち、重度化した場合は法人の病院に入院している。変化時、即連絡をしてほしいとの家族の希望があるので重度になった場合は協力医と相談し、入院にて治療を行うという方針で、安心して納得した最期を迎えられるよう随時意思を確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修により事故発生時の対応に備えている。また緊急時のマニュアルも用意しており、適切な対応に努めている。看護職員により救急法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に訓練を実施したなかで玄関の段差によって車イスの方の誘導に時間がかかることが分かった。現状まだ改善とはなっていないが、可動式のスロープ等を検討、設置を予定している。そして、夜間想定時の職員への連絡、避難誘導訓練を、より具体的な方法で実施を考えていきたい。	年2回を予定して併設の事業所と合同で火災訓練を10月に実施した。消防署への連絡方法・消火器の説明と操作方法を学び、車椅子の利用者と一緒に参加して第1避難所である駐車場へ避難する訓練を行った。実施後の反省として職員より意見を出し合い、今後の課題に繋がった。3月に夜間を想定しての訓練を予定している。	車椅子利用者の避難方法を職員間で検討し、スムーズに広い駐車場に避難できるように玄関等の段差の工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	その人らしく安心して穏やかに過ごせるように、本人に合った言葉で支援するようにしている。ときには利用者 に合った方言を使った支援もしている。子ども言葉は使わず、できることには自己決定しやすい言葉がけをして利用者本人の気持ちを大切に支援に励んでいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。	希望や自己決定できるように言葉かけ、コミュニケーションを図っている。また、その雰囲気づくりにも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やペースに合わせて、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。	個々の希望やペースに合わせて、日々の生活を送って頂いている。随時希望を確認しニーズに沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。	本人の選択、自己決定を尊重している。その方らしいおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備、片付けを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。また口腔体操を行い安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	個々の嗜好を聞き、代替のメニュー提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備、片付けを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。口腔体操を行うことで安全に食事摂取が続けられるよう支援している。	献立は併設の管理栄養士が利用者の希望を入れ作り、特に主食は代替メニューを取り入れて利用者の楽しみとしている。食器、テーブル拭き、ふきん干し等利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。「わくわくランチ」で2か月に1回特別食で各県の郷土料理を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事、水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。	毎食後、口腔ケアの声かけ、又は介助を行っており口腔清潔を保っている。状況によっては口腔清拭を行い口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	個々の排泄パターン、習慣を把握し支援を行っている。できる限りトイレでの排泄ができるように対応している。	排泄チェック表を使用し、利用者の状態を把握して支援している。リハビリパンツ、パット類も本人に合わせて検討し、誘導、声かけ支援し、自立に向けてトイレで排泄できるように取り組んでいる。また、失敗した夜間など話す機会を多くもち、落ち着いて休むように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる	栄養士による献立にて食物繊維や水分確保が取りやすい食事提供に努めている。散歩や日々の生活の中で適度な運動を行ない便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	出来る限り個々の希望に沿った入浴日、入浴時間を提供している。	入浴は週3回を基本として組表を作り、入浴日に希望の時間帯に入浴できるようにしている。入浴時の衣服の着脱は自分で出来る利用者もいる。入浴の際に、歌を唄ったり、話をする場となり楽しんでいる。皮膚にトラブルが生じた時は、医師の処方を受け対応している。入浴後、化粧水や椿油をつけている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームめぐみ登美

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1丁目)	ユニット名(2丁目)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。	個々の生活習慣や、その時の状況に応じて自由にお部屋で休んで頂いたり、安眠して頂けるよう支援している。室温の管理や、不眠の際には職員とお茶を飲んだりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化、内服の変更等あった場合には確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。	個々の生活歴や趣味嗜好、現在の力などを理解することで、日々の楽しみや気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	日々の散歩以外にも、季節に応じた行事の外出やご本人の希望に沿った外出が出来るよう、ご家族への対応を行っている。	敷地が広いので天気の良い日は車椅子で散歩している。ホールや廊下の窓から山々の風景や庭の松が見えるので、車椅子の利用者と庭に出て外気浴をしている。また、遠足を兼ねて市外に車を出掛けている。家族と一緒に外食に行く利用者や自宅に家族と行く利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うこと等の支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。	個々の希望に応じて、電話や手紙などを使用して自由に連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮している。	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。不快や、混乱が無いよう配慮している。	各室の入口には「おやゆび姫」の物語を綴る絵が飾られて、中央に食堂、洗面所、ホール、畳のスペース、職員が利用者を見守りながら記録が出来る空間はカウンター式になっている。テーブルには葉の花やクラフトの作品が置かれている。雪をいだいた南アルプスやハケ岳が一面に見渡すことができる。庭の大きな松も窓額に入ったようで落ち着く。ホールに座っている人と食事をつくる音、匂いが家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファ、畳の間では座って談笑されたり、寝転んでくつろいだりと利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。	共有スペースにソファ、畳の間では座って談笑されたり、寝転んでくつろいだりと利用者同士が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。	個々の自宅で使い慣れたタンスなどの家具を持参できるようにし、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう配慮している。	入口にはクラフトのお雛様が置かれている。各室の前の窓には「おやゆび姫」の絵で物語が分かるように貼られ、3モーターベッド等本人の希望に添った物を利用し、これまでの生活スタイルを大事に部屋作りをしている。電気毛布を使用、携帯電話も持っている利用者等、温かい雰囲気の中で生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札を付けたり、入り口に飾り付けを行い個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。	居室の前には表札を付けたり、入り口に飾り付けを行い個々で変化を付けたり利用者自身で分かるように配慮している。		